

第8学年 理科 学習指導案

日時 令和6年11月1日（金）第5校時
 学園生 8年B組 26名
 指導者 森井亮哉

1 単元名 「1章 地球を取りまく大気のようにす」

2 単元の目標

- (1) 気象要素として、気温、湿度、気圧、風向などを理解する。また、圧力についての実験を行い、圧力は力の大きさと面積に関係があることを見出して理解するとともに、大気圧の実験を行い、その結果を空気の重さと関連づけて理解する。(知識・技能)
- (2) 校庭などで気象観測を継続的にを行い、その観測記録などに基づいて、気温、湿度、気圧、風向などの変化と天気との関係を見出して理解するとともに、観測方法や記録の仕方を身につける。(思・判・表)

3 大空学園の研究にかかわって

【仮説1】自国の文化と他国の文化を比較することによって、異文化を認めたり自国の文化の価値に気づいたりできるだろう。

世界中の異常気象を調べ、「場所」「気象現象の種類」「キーワード(しくみ)」を抽出する活動を通して、気候区分によってさまざまな現象が起きていることに気づかせたい。また、それぞれが独立した現象に見えるが、気流、海流を介してお互いに関わり合っており、日本もその関わりの中の一部であることに気づかせたい。

【仮説2】「自分にできること」を考える場面を意図的に設定することによって、主体的に国際社会に参加しようとする態度をもつことができるだろう。

異常気象について調べる中で、各地で異常気象の影響を受けている人々の存在に気づき、現在、世界中で問題になっている気候変動や環境問題に対して、予測・対処していくために、自分達にできることを考えるきっかけとしたい。

4 指導計画 (全6時間)

学習段階	授業の展開	評価の観点と手だて □評価 ◆手立て
1次 (2時間)	気圧を取り上げ、圧力についての実験を行い、圧力は力の大きさと面積に関係があることを見出して理解するとともに、大気圧の実験を行い、その結果を空気の重さと関連づけて理解する。	□圧力は力の大きさと面積に関係があり、気圧は空気の重さによるものと理解している。(知) ◆ワークシート
2次 (2時間)	校庭で気象観測を行い、観測方法や記録の仕方を身につける。	□観測方法や記録の仕方を身につけている。(知) ◆観測のようす、観測シート
3次 (1時間)	観測記録などに基づいて、気温、湿度、気圧、風向などの変化と天気との関係を見出して理解する。	□気象要素の変化と天気との関係を見出している。(思) ◆ワークシート

4次 (1時間) 本時	世界では気候区分によって様々な現象が起きていることに気づき、それらのしくみを理解するための視点(キーワード)を見つける。	□気象のしくみに気づくための視点(キーワード)を見つけている。(主) ◆活動のようす
-------------------	--	---

5 本時の目標

異常気象のしくみを調べ、日本とは異なる気候区分の国では、発生する異常気象も多様であることに気づくとともに、今後の学習で気象現象のしくみに気づくための視点(キーワード)を見つける。(主)

6 本時の展開

学習活動	□評価 ◆留意点	●国際理解の視点
1. 前時の振り返り		
2. 異常気象といわれて、イメージすることを挙げる。 ・ゲリラ豪雨、台風、洪水 ・猛暑、干ばつ	◆原因は地球温暖化が上げられるが、雨が降るものと雨が降らないものがあることに気づかせる。	
3. 一言に異常気象と言っても、世界中で多様な現象があることに気づく。	◆実際の写真などを見せる。 ◆気象現象に対して予測、対策するためには、しくみを理解する必要がある。本時はその視点を見つけ、今後につなげることを説明する。	●近年日本で頻発している異常気象は他の国や地域でも発生していることに気づく。
【課題】世界中で起きている異常気象を調べ、気象の学習のキーワードを見つけよう。		
4. 班ごとに世界中で起きている異常気象を調べ、「場所」「気象現象の種類」「キーワード(しくみ)」をFigJam上の世界地図に記録していく。	◆できるだけたくさん記録するように促す。 □気象のしくみに気づくための視点(キーワード)を見つけている。(主:活動のようす)	
5. 班ごとにキーワードの紹介と補足説明していく。		
6. 最後に世界地図全体を見て、気づくことを交流する。		●世界規模で見ると、大まかな傾向が見え、日本もそのうちの1つだということに気づく。
7. まとめ・振り返りは単元シラバスに記録する。	◆単元を通して、地図を使って、課題を解決していく。	
【まとめ】(自分の言葉で単元シラバスに記録。)		